

佐賀市老連ニュース

文責 木下 治紀

会員増強運動の取組結果

の総括

平成26年度から始まりまして、全国老連の「会員100万人増強運動」の5か年計画が30年度で終了しましたが、全老連・佐賀県老連・佐賀市老連としても積極的に取り組まれましたが、会員の増加とはならなかったのが残念であります。単位クラブの会長を始めとして校区老連会長・役員の皆様方の努力もあり一応の成果があったものと思っております。せっかく、貴重な一人を加入させたかと思えば、単位老人クラブの消滅や校区老連の消滅といったことがあります。

このことについては、後継者を育成してこなかったことが最大の要因となっております。私たちの貴重な老人クラブを末永く継続していくためには若手高齢者が必要となってきます。いかに、若い人が入会して貰えるのかを考え「魅力ある」老人クラブにすることが必要で

あります。そのために佐賀市老連として、平成28年9月と平成30年9月に佐賀市自治会長会に老人クラブへの理解と未設置地域への老人クラブの立ち上げの要請を行いました。

今後、要請したことが効果を発揮するものと思っております。

平成26年度の会員数14,409人を基本として毎年3%の増加を想定しましたが、初年度で14,842人と当初(B)の目標値大きく下回り(△868人)であり、(C)の数値は年々大きく下回った。そこで、(A)の確定数値をもとに毎年3%の数値(D)を見直して活動したが、それでも(E)再目標値を下回ったものである。大きな要因として新規会員は5年間で3,427人とまずまずの成果はあるものの、単位クラブの消滅により会員数の減少(29クラブ)は大きかったものである。

特に、最終年度で川副町大詫間校区老連5クラブ387人の減少と大和町老連の24クラブから18クラブと△6クラブで151人の減少があった。

現在の少子高齢化は益々激しくなり団塊の世代が75歳に到達する2025年は間もなく到達しますが、高齢者人口は増加する一方で老人クラブの会

会員増強の取り組み(平成26年度のクラブ数・会員数を基本として)

年度	クラブ数	A 会員数	B 26年度を基本とした3%目標数	C 目標値との差 A-B	D 会員数確定値による3%目標値	E 改定目標値との差 A-D	新規加入者数	減少者数
26	315	14,409	—	—	—	—	—	—
27	316	13,974	14,842	-868	—	—	767	1,202
28	307	13,500	15,286	-1,786	14,394	-894	742	1,216
29	304	13,025	15,746	-2,721	13,905	-880	785	1,260
30	304	12,441	16,218	-3,777	13,416	-975	620	1,204
31	286	11,373	16,704	-5,331	12,815	-1,442	513	1,581

員の減少は歯止めが効きません。老人クラブの原則として高齢者通しの繋がりを強くして、「健康」「友愛」「奉仕」の三大運動を取り組もうではありませんか。

平成30年度における会員数の推移

30年度クラブ数 304クラブ
令和元年度クラブ数 286クラブ
1クラブの再結成 19クラブの解散で結果18クラブの減少

30年度会員数 12,441人
令和元年度の会員数 11,373人
結果 1,068人の減少

増減の内訳
新規加入者 513人
再結成での増加 16人
クラブ解散による減少 815人
死亡・施設入所等での減少 782人

※川副町の「大詫間校区老連」の消滅で5クラブの387名が減少であり校区老連の消滅や単位クラブの休止となれば多くの会員が減少することになり 絶対に止めなければならぬ